

スタートアップ政策推進分科会（第2回）

ディープテック・スタートアップの支援について

岡田光信

1. 提言の骨子

本提言では、スケールアップ段階にあるディープテック・スタートアップ（SU）の成長加速を目的とした「社会実装パッケージ」を提案する。具体的には、以下の3本柱で構成する。

1. ディープテック初期導入基金（仮称）の創設
2. 国内供給の薄い直接金融を賄うスケールアップファンド（仮称）の創設
3. 銀行融資への政府保証の付与による間接金融の活性化

これにより、勝ち筋の先端技術の社会実装を加速し、企業価値の「100億円→1000億円」に、「1000億円→1兆円」への成長を促し、日本経済の競争力向上と社会変革を実現する。

なお、技術シーズ段階～PoC段階の初期スタートアップについては、スタートアップ育成5か年計画など既存施策の効果が出ており、継続・拡充が有効である。

2. スケールアップ期のディープテックの特徴と課題**(1) 特徴**

スケールアップ期のディープテック SU 施策は概ね以下の特徴を備える。

- 一定の技術実証が完了している
- 複数の代表的顧客を有している
- グローバル展開の可能性がある
- ガバナンス体制と組織基盤が整いつつある
- 政府政策と整合性のある領域で事業を展開している

(2) 課題

一方、この段階特有の課題として、以下が挙げられる。

- 先行投資型で収益化までに大きな需要規模が必要
- 市場の予見可能性に乏しく、投資判断が難しい
- 国内で技術は先行しても、海外競合が先にスケールするリスク
- 直接金融と間接金融（銀行）の狭間にあり、資金調達が不安定

3. 政策案(イメージ図ご参照)**(1) 技術実証と社会実装の谷間を埋める：ディープテック初期導入基金（仮称）**

政府施策により技術実証まで到達しても、行政側での新技術理解や調達制度が追いつかず、社会実装に進まない構造的な課題がある。

- 従来型の公募では要件定義が前例踏襲となりがち

- ・ 新規性の高い技術ほど要件策定が難しく、採用に時間を要する
 - ・ 一部の担当者が評価しても、組織全体の意思決定にタイムラグが発生
- これらを踏まえ、以下の特徴をもつ基金の創設を提案する

<ディープテック初期導入基金（仮称）の概要>

- ・ 選択と集中。17 戦略分野において、30~50 社程度を重点的に支援
- ・ 複数年契約および後続契約による予見可能性の確保
- ・ 各省庁が個別に発注し、調達を実施
- ・ 随意契約など、柔軟な契約形態を採用（透明性確保を前提）

<参考：米国国防総省の OTA の例>

米国国防総省は「その他の取引権限（OTA）」を活用し、従来型契約に縛られず、スタートアップ等と柔軟かつ迅速に契約し、先端技術のプロトタイピングを推進している。

（2）直接金融を動かす：スケールアップファンド（仮称）

（第1回で提言済み。詳細は割愛）スケールアップ期の SU は直接金融と間接金融の谷間にあり死の底と言われる。直接金融と間接金融両側からの支援で埋めることが肝要。辛抱強いキャピタルが施設拡充、M&A などの積極的な事業戦略を生み出す。

（3）間接金融を動かす：銀行融資への政府保証

（第1回で提言済み。詳細は割愛）スケールアップ期の SU は一定の事業実績があり、政府保証を付与することで銀行の参入が促進、資金供給の幅が広がる。

4. SU 政策の執行上の運用改善

現行 SU 施策には執行上の改善余地がある。背景には、省庁ごとのルールや会計検査上の懸念、過去慣行の固定化などがある。以下は例であり、一律な改善を望む。

- ・ 間接費のばらつきと低水準（5%、10%、30%など）
- ・ 人工レートの不整合（健保等級ベースでは実態と乖離。実績単価方式は証憑負担が過度に大きい）
- ・ 補助金の事務処理マニュアルが実態に即していない（例：個別銀行口座の開設依頼、会社規程を越えた運用指示など）
- ・ 証憑提出の負荷が通常の会社業務を越えて過大（例：省略）
- ・ 保証制度（省庁によっては前払い形態の契約の場合、銀行保証状の差し入れを要求される。担保差し入れと保証料が SU の負担に）
- ・ 大学・研究機関との知財交渉の長期化回避（例：モデル契約書や知財買取のガイドラインの整備など）
- ・ 計画変更に制限がある（特に先端技術開発に柔軟な対応が必要）
- ・ マイルストーン支払いの整備（概算払いと検収の柔軟化）

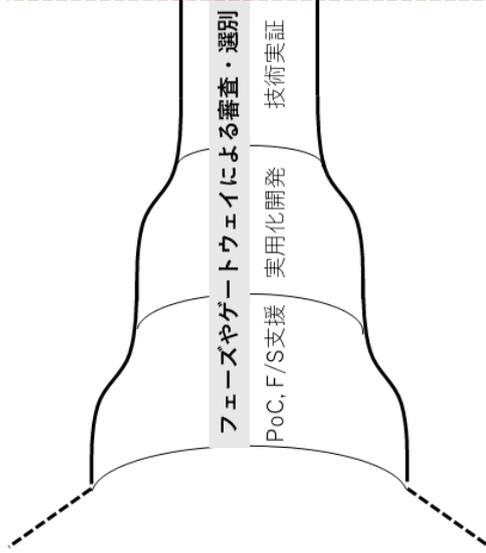
以上

ディープテックの社会実装を加速させるために（イメージ図）



研究開発促進・
イノベーションの創出

(SBIR、宇宙戦略基金、その他の施策)



ディープテック初期導入基金
(仮称) による政府調達

官公需の本格調達と
民需・外需への波及

